

友の会総リーダー様 書籍係様

明日館の桜も花吹雪となりはじめ、新緑が目にまぶしい日々です。
友の会の皆さまは、また新しい気持ちで新年度をお迎えの頃と存じます。
この4月に発売となる新刊のご案内をお送りいたします。

4月23日 書店発売 森まゆみ著

『じょっぱりの人 羽仁もと子とその時代』

2021年から23年の『婦人之友』に連載の「羽仁もと子とその時代」が、ついに書籍になりました。

八戸から櫛（そり）に乗って上京した一人の少女が、女性新聞記者の先駆けとなり、同じくジャーナリストの羽仁吉一と出会って結婚。二人で『婦人之友』を創刊、そして自由学園をつくり、読者の組織から「全国友の会」が生まれ、多くの友と手を携え合いながら、新しい時代を切り拓いてきたことは、皆さまもすでによくご存じでしょう。

そんな羽仁もと子の生涯を、近代女性史に詳しい森まゆみさん(作家)が、激動する明治・大正・昭和の時代背景を通して、勢いよく描いてくださったこの一冊。連載に推敲・加筆を重ねて、通して読むと、いっそうの迫力です。

私たちが日頃から親しんでいる著作集のこの言葉が、こんな時代の中で書かれていたのか、と驚かされることもたびたび。また、妻として、子どもを育てながら働く母として、親として、悩み喜び涙する……そんな一人の女性としてのもと子の姿が胸に迫ります。

同時に、やや距離を置いた冷静な視点は、私たち三団体にとって大切なものと思われれます。

「教育者の方の伝記は概して地味なもの。最初はどうかと思ったのですが、書くほどに面白さが増してきて、止まらなくなりました」と森さん。あとがきには、たくさんお話を聞かせていただいた各地の友の会の方々への謝辞とともに、「友の会という行動する読者組織を作ったことが、もと子の最大の成果だったかもしれない」とも書かれています。

連載を毎回、楽しみにお読みくださった方も、読み逃した方も、また関心がなかった方も、ぜひお手元に置いていただき、新しいミセス羽仁と出会っていただければ幸いです。

お近くの方々は、4月23日の出版記念講演会にも、どうぞお越しください。

2024年4月9日

婦人之友編集部・雪山香代子/羽仁曜子